

春の農作業を安全に！

3月～5月は『春の農作業安全運動』実施期間です



春の農繁期を迎え、農業機械を利用する機会が増加するとともに、毎年この時期から、農作業事故も増加します。

事故原因の多くは「慣れからくる油断」や「周囲の確認の怠り」です。いつもの作業であっても、農作業事故の危険がないか点検し、農業機械の運転・操作時の安全確認や安全装置の確実な利用により、事故の発生防止や被害軽減に努めましょう。

春の農作業安全運動・重点注意事項

- トラクター使用時の「ヘルメット・シートベルト着用」や「安全キャブ・フレームの利用」を徹底しましょう。
- 乗用機械発進時の「走行レバーの進行方向の確認」や、後退時の「後方や足下の状況確認」を徹底しましょう。
- 体が暑さに慣れていない春先には、熱中症も増加します。体調管理に留意し、体調が悪いときは無理せず休養しましょう。



安全に農作業できるよう、家族や地域で声をかけ合いましょう。

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

おしえて！
メンドーザ先生



私はフィリピンから日本に渡り、令和5年8月1日から町内の保育園・小学校・中学校でALTとして勤務しています。私の故郷フィリピンのことや智頭町で体験したことなどについて連載します！

How the Philippines Became an English-Speaking Nation in 120 Years

In 1903, only 10% of Filipinos spoke English, while Spanish remained the dominant language among the educated. English was introduced when the United States sent 600 teachers aboard the USAT Thomas after taking control from the Spanish Empire. It wasn't until 1987 that English officially replaced Spanish as the language of government. Today, over 95% of Filipinos understand English, and 80% can communicate in it with varying fluency.

English proficiency grew through formal education, where subjects like Math, Science, Moral Education, Music, and Art are taught in English, while Social Studies is in Filipino.

The widespread use of English in education, media, and business has made the Philippines one of the largest English-speaking nations in the world today.

フィリピンはいかにして120年間で英語圏になったのか

1903年当時、英語を話すフィリピン人はわずか10%で、教養のある人々の間では使用言語はスペイン語が主流だった。英語が導入されたのは、米国がスペインから支配権を奪った後、USATトーマス号[※]に約600人の教師を送り込んだときだった。スペイン語に代わって英語が正式に公用語となったのは1987年のことである。今日、フィリピン人の95%以上が英語を理解し、流暢さの差こそあれ、80%が英語でコミュニケーションをとることができる。

数学、科学、道徳、音楽、美術などの教科は英語で、社会科はフィリピン語で教えられている。

教育、メディア、ビジネスで英語が広く使われるようになったことで、フィリピンは現在、世界でも有数の英語大国となっている。

※ USATトーマス号…19世紀終わりから20世紀初頭にかけて運航したアメリカ陸軍の輸送船。軍事任務だけではなく、フィリピンに教育制度を確立するための教師派遣輸送にも使われた。